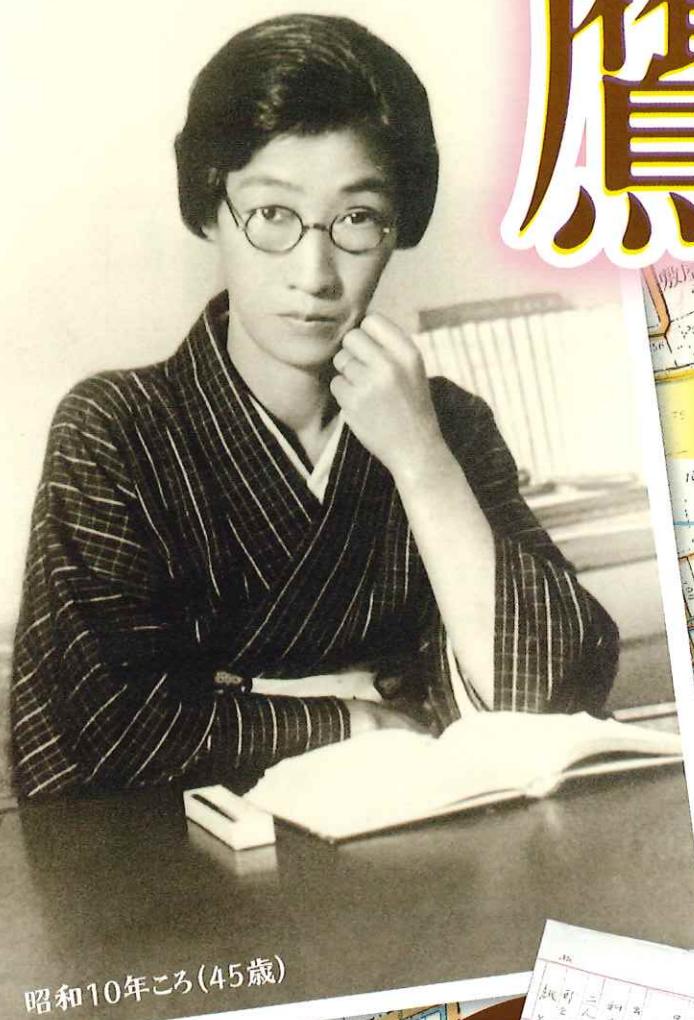


特別収蔵展



昭和10年ころ(45歳)

# 鷹野つぎ 展

浜松やかりの  
女性作家

～その生涯と作品～

展

鷹野つぎ生家

現在の尾張町に生まれ、

浜松高等女学校(現在の浜松市立高校)を

卒業した少女は、

やがて島崎藤村に認められ、

小説、随筆、評論…などの文筆作品を  
世に送り出しました。

浜松高等女学校  
(明治37~大正12年)

浜松高等女学校  
(明治37~大正12年)

「娘と時代」  
覚え書きと原稿

令和7年

3月1日土～6月15日日

時 間 午前9時～午後5時

会 場 浜松文芸館 展示室(クリエート浜松5階)

主 催 浜松市 (公財)浜松市文化振興財団

協 力 浜松市立高等学校



公益財団法人  
浜松市文化振興財団  
Hamamatsu Cultural Foundation

浜松文芸館の管理・運営は浜松市文化振興財団が行っています。

●JR浜松駅より徒歩10分 遠州鉄道「遠州病院駅」東隣  
遠鉄バス「県総合庁舎」「常盤町1」バス停下車  
●クリエート浜松には専用駐車場がございません。  
提携駐車場OGURI/パーキング1・OGURI/パーキング2をご利用の場合は、一律200円引き(40分無料)いたします。  
1階事務室前の認証機に駐車券をお通しください。

入場無料  
3月10日月は休館  
4月以降も月曜日が休館となる場合があります。  
お問い合わせください。



## 浜松文芸館

〒430-0916 浜松市中央区早馬町2番地の1  
電話・FAX 053-453-3933

鷹野つぎ略年譜（明治 23 年～昭和 18 年）※年齢は数え年

西暦	年号	年齢	事項	☆子供について★	
1890	明 23	1歳	浜名郡浜松町下垂(現在の浜松市尾張町)に生まれる 本名岸次		
1901	37	15	浜松町立尋常小学校高等科三年修了 浜松町立高等女学校(現浜松市立高校)二年に入学 田辺友三郎校長に古典を、高田真雄先生から新しい文学について学ぶ		
1907	40	18	浜松町立高等女学校卒業 静岡高等女学校研究科に入学するが、その夏、トラホームのため帰省 そのまま退学する 松島十湖の伝記編纂に従事していた 4 歳年上の鷹野弥三郎と知り合う		
1909	42	20	秋、家を出て、前年に名古屋新聞社に入社していた弥三郎のもとへ行き、結婚生活に入る 周囲から結婚を猛反対され入籍できず		
1910	43	21	弥三郎が名古屋新聞豊橋支局長になり、豊橋に移る		
1911	44	22	松島十湖が、つぎを養女とし、入籍がかなう	☆長男正弥誕生	
1914	大 2	25	文芸同人誌『一隅』を発行 毎月発行するも	☆次男次弥誕生	
			10 号で廃刊 弥三郎が報知新聞社に入社 東京に移る		
1917	6	28	弥三郎時事新報社に入社	☆長女参弥子誕生するも 小児脚氣で死亡 2 歳★	27 歳
1920	9	31	夏ころ、初めて島崎藤村を訪ねる	☆次女三弥子誕生	豊橋にて
1922	11	33	島崎藤村主宰『処女地』が発刊され、誌友となる 小説『悲しき配分』出版	☆三女弥薫栄誕生	
1923	12	34	感想集『眞実の鞭』出版 関東大震災により、弥三郎の勤める時事新報社全焼 弥三郎は退社		
1924	13	35	小説集『ある道化役』出版 弥三郎『山窩の生活』出版 つぎ、結核発病するもほどなく回復か	☆三男三弥誕生	
1926	15	37	養父松島十湖死す	★長男正弥結核で 死亡 16 歳	
1928 昭 3		39	つぎの実父岸弥助死す 差押えを受け、家を手放す	☆四男真弥誕生	36 歳東京にて
1929	4	40	弥三郎が将弥と改名		
1935	10	46	『子供と母の領分』出版	☆五男節弥誕生するも医療事故 で死亡 4 歳★	
			つぎ、結核が再発 自宅療養生活に入る	★三女弥薫栄結核で死亡 15 歳	
1936	11	47	東京のサナトリウムや個人病院に入院		
			「ふるさとよはままつ」の詩(市立高碑文)を中村精氏に送る		
1939	14	50	完治せぬまま退院 弥三郎と中野区沼袋に住み、闘病しつつ執筆		
1940	15	51	『幽明記』出版	★三男三弥結核で死亡 14 歳	
1941	16	52	『四季と子供』出版 太平洋戦争に突入	★四男真弥が急性肺炎で死亡 16 歳	
1942	17	53	『女性の首途』出版		病床につく
1943 昭 18		54	結核のため亡くなる 7 か月後、夫の弥三郎も結核で亡くなる ※つぎの死後、翌年にかけ『限りなき美』『娘と時代』『太陽の花』 『隨筆集 春夏秋冬』が出版される 両親の死後、次男次弥は東京、次女三弥子は父の故郷小海町に住む(現在はいずれも他界)		

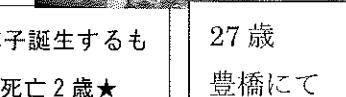
鷹野つぎの作品は、昭和 54 年谷島屋書店刊行『鷹野つぎ著作集』全四冊及び平成 29 年浜松市旧中区発行の全二冊『鷹野つぎと明治の浜松・中区～回想記：四季と子供・娘と時代～』で読み味わうことができます。



14 歳



革靴を履く  
17 歳



☆長男正弥誕生  
☆次男次弥誕生



27 歳  
豊橋にて



36 歳東京にて



晩年の鷹野弥三郎・つぎ